

—と紹介したら、読んでみたいなあ、となりますよね。

宇山 良いですね。ぜひ大人版をやっていたらいいと思います。例えば、しらかば学級開催時に司書さんたちが来てくれたり、学校の参観日に保護者向けに司書さんから本の紹介などがあれば子どもだけじゃなく家族で本が読めますね。

平成30年の完成目指して夢のある図書館に

—さて、図書館が皆さんの話題になっています。議会の中でも質問をいただいています。今財源を探しながら平成30年までには完成させようということを進めています。そこで図書館の話に入りましょう。位置は今のところ、旧東川小学校の一角に新設しようという考え方です。文化、芸術、図書、出会いを含めて集中的な場所に、ということですね。

宇山 広さがあり、ゆったりと過ごせて…、やっぱり夜の時間が大事だな、という気持ちがあります。コピーをしたり、ボランティア的な活動をする時に集まれる場所があったり、安く印刷できたり、冊子を作れたりする場所が必要であったり、異なる年齢の人が一緒に作業できるようなお部屋があってもいいかな。

—読み聞かせの時によ／言っていたところは、扇型で座るところが段差上になつていました。お話を集中して聞く

京にカメラ財団というところがあるんですが、そこから本をいただけるといふような話もあります。

それから織田さん(※4)は、デザイン専門書だけでも相当のものを持っているんです。国内外の専門家を集めてデザインセミナーみたいなものを開きたいという意向もあるようです。その時に専門書を見ることが出来る場所を作るとか。

集まって、学んで、何かを作って、食べて…という複合的な施設になればいいと思います。どのくらいかかるのか、財源を見つけてながらぜひ実現したいと思っています。

まちなかで大雪山が見えるところは、役場の屋上と3階、東川小学校の体育館、農村環境改善センターの屋上くらいしかない。できれば旭岳のすばらしい眺めを眺望できる複合施設になればいいですね。大雪山の文化みたいなものが収蔵される所、家具、デザインのようなものを所蔵できる場所があるといいのかな。でもこれはどうなるのかまだ分かりません。

宇山 景色が良い所で、好きな場所でも本を読めたりするのはいいな、と思います。みんなが集まれる場所は、今は改善センターくらいしかないですけど、講演会を開くと、いつもは何人くらい集まるんですか？

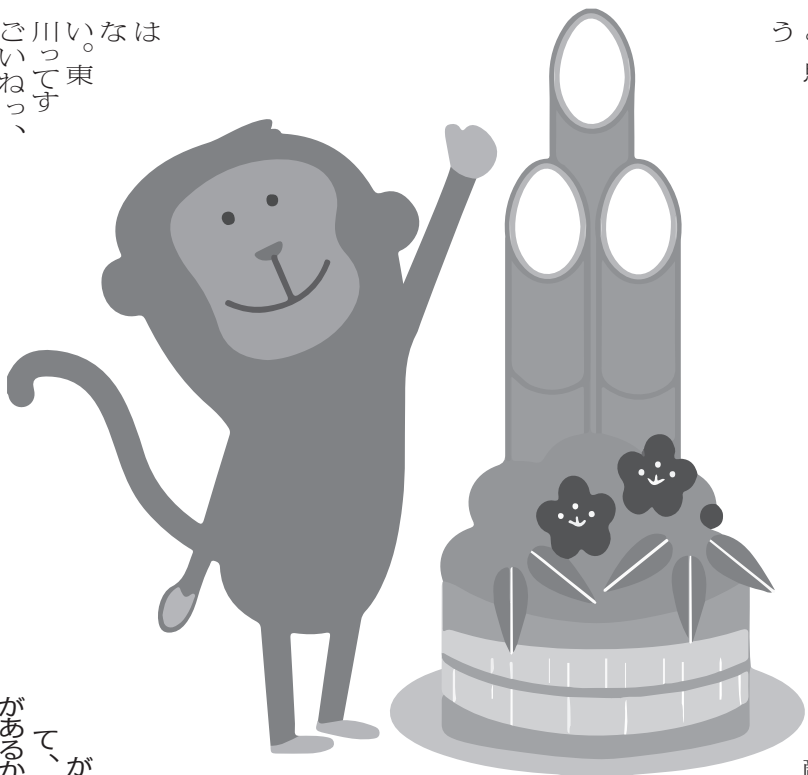
福田 長谷川義史さん(※5)が来た時には500人以上来たの。全国の講演会について歩きましたけれど、500人以上も集まったところはそんなに

ことができるような造りがいいと思います。外も眺めることができ、靴を脱いで足を伸ばして、お母さんに寄り添って話を聞けたらいいですね。

澤田 宇山さんが言ったことが大体図書館の本質そのままじゃないかしら。まず入りやすいこと、入り口はまず大事。そしてどこでも本を読めて、ちょっと書架の後ろでも休めて、ちょっと子供の声が聞こえてもOKという場所も。

宇山 静かにするお部屋や飲食ができる休憩スペースも必要だと思います。作業できるスペースに子どもや大人が集まって何かを作る時、作り方を書いた本を探しに行けて、その本を頼りに物づくりが始まる。そんな循環が出来たらいいですね。映像を見ることが出来る所もあって、休日はどこで一日過ごしたいと思える場所になったなら素晴らしいですね。

林 東川には大雪山の書物もあれば、外国から日本語留学生も来ています。ですからほかにならぬ東川町だけの図書館が出来ると思



は川ついで、東川ついで、ぐいねい、てみんなを言っています。

大学に行っている子どもたちが夏休みに帰ってきて、十分そこで学べるだけの蔵書、スペースもほしいですね。この町で良い時間を過ごすことがこの町に帰ってくる動機になります。

宇山 図書館がいいと、その町に行きたくなるんです。遠くても、一度行って良かったらまた行って、その町で買い物もしてしまつて。この町もそういう町になれるんじゃないですか。

福田 道北の町の司書さんがよく東川に来るんです。偶然に出会って「えっ、どつしてこんなところにいるの？」と聞いたら、「私大好きなの、この町のカフェと言つんです。小さなカフェがいっぱいあるでしょ。そして木の看板がいいでしょ。若い人が移り住んで来たいという町なんじゃないかね。

—本州の小さな町によく行きますけれど、図書館というのはすごいですね。メインの施設になっていきますものね。今地方創生の時代といわれています。そこにチャンスがある。お米があつて

んです。人口8千人の町に外国人がこんなにたくさん住んでいる町はないと思いますので、国際色豊かな図書館になると思います。

福田 宇山さんの経験と構想は素晴らしいなあ、と思います。私たちが願っていることとまったく一致している、江別の図書館で経験したこともよかったですよね。

宇山 札幌の図書館ではペーパーサートやエプロンシアターなど、子どもがグッと入り込みますので、そういうことって大事ですし、それはお年寄りになっても大事だと思うんです。

福田 図書館の可能性として注目されているのは、ビジネス支援や課題解決支援です。宇山さんのように農業をされている方が蔵書の中からヒントを見つけ出して、いかに自分たちの仕事に役立てていくか、いろいろな情報を図書館が提供し支援することが求められています。

東川って今、いろいろなことで注目されているんですよ。「図書館ができたの、素敵な町にな

て、家賃があるから、そついつビジネス的なものを含めた図書館は可能じゃないか、と思っています。

できる限り早くやりたいと思つています。最低でも10億円規模の事業費がかかりますけれども、赤ちゃんからお年寄りまで集まって、楽しく過ごせることが出来るような、そして本を読んだ皆さんが何かを伝えることが出来るような場所になればいいと思つています。

宇山 わくわくしますね。年配の方の読み聞かせとか、例えば東北なまりの方のお話とか…。江別にいた時に知り合った方で遠野出身(岩手県)の方がいらつちゃって、私と会うとよく「あんだあ、かっぱ見たことあるっ」と聞いてたんです。「わだす、見たことあるんだあ」。なんか温かくなって、そのおぼあちゃんにまた会いたくなるんです。この町でそれが出来ないといつても、人に会いたいていこう温かさがあつたらいいなあ…。

—人と本だけが結び付くのではなくて、本を通して人の輪ができるような…そんなお話ですね。

—

るね」「足りないのは図書館だね」と言われている。他の町の人夢を持ってくれています。

澤田 私は町議会にすごく興味があつて、でも傍聴したいと思つても行けない。図書館に議会の議事録とかがあると良いですね。住民も興味、関心を持って町の動きを見たいものね。今はそういう動きが分らなくて、もっと分かるようになっていくと町民にとってはいいことだと思うの。図書館が出来ることでそういう相乗効果もあれば良いなあと思つて。

福田 慶応大学の糸賀先生(※3)は「図書館づくりはまちづくり」ということをおっしゃって、あちこちでアドバイスされているんですけれど、本当にまちづくりになるんです。

宇山 子育て中は、いろいろな図書館に行きました。博物館と一緒になっている図書館もあり、大型絵本がたくさんある図書館もあります。作家さんが来るという情報があったら子供たちと一緒に行った…。作家さんの話はその場で聞くと違いますが、そんなことをしてました。

—先ほどビジネスという話が出ていたけれど、今写真文化の中で本が消えていく、写真集も消えていく、フィルムが消えていく、という状態になつていまして、そついつものを集めよう博物館的な機能を持ち写真展もできるよつにしようと思つているんです。東

林 今、本を購入する準備をしています。どついつ図書館にするかという配置も検討に入っています。そついつものがまとまったら、一度建築準備の打ち合わせをしよう、といつていくなつていきます。

—今お話をうかがつたよつなご、皆さんの知恵を最大限生かせるよつな形にしたいと思つています。本日はどうもありがとうございました。

(収録は昨年11月28日、役場応接室で)



(※1) 高沢賢治1899(明治29)年-1933(昭和8)年、37歳で没。詩人、童話作家。岩手県禰野郡(現花巻市)出身。

(※2) 「いないいないばあ」赤ちゃんの本。文・松谷みよ子、絵・瀬川康男、童社。

(※3) 糸賀雅児氏(慶應義塾大学文学部教授(図書館学、中央教育審議会生涯学習分科会委員))

(※4) 織田憲嗣氏(北海道東海大学芸術工学部特任教授。椅子の研究者として北欧を中心とするモダンチェアを収集。東川町の旧留守家庭児童会館(東町1丁目)に自ら収集した椅子を常設展示中。)

(※5) 長谷川義史氏(1961(昭和36)年大阪府生まれ、絵本作家。『おたまさんのおかいさん』で講談社出版文化賞絵本賞(2003年)。「いごはにほへ」とで日本絵本賞受賞(05年)。「ぼんがらーめん」で『おたまさん』で日本絵本賞・小学館児童出版文化賞受賞(08年)など。